



農村でも協同農園！

山梨市牧丘町は全国でも有数の巨峰やシャインマスカットをはじめとするブドウの産地であるが、同じ山梨県の峡東地域にある甲州市勝沼とはいささか様相が異なる。中央高速ICがある勝沼は交通の便が良いことも影響してか、観光農園を含む生食用のブドウ生産が主で、ワイン用ブドウの生産も多く、聞くところでは担い手が農地を手放そうとすると、新規就農者等がすぐに手をあげるとかで、農地を取得するのはけっこう大変らしい▼牧丘は勝沼ICから車で20分程度とさほど離れているわけではないものの、耕作放棄されている農地は多く、新規就農者の数も勝沼とはずいぶん違う。そうした中で1年以上前となる話ではあるが、私の畑の隣の農地は老夫婦が自給用の野菜とブドウを作っていたのであるが、高齢化から東京に住む息子さんが時々戻って草刈りだけはしていた。老夫婦が続いて亡くなられて、息子さんはどうするのかと思っていたところ、畑に見かけたことのない男性がいるので、声をかけてみたところが、車で15分ぐらいのところに住むブドウ農家で、今度、この農地を購入し、奥さんが中心になって野菜を作るとのこと▼それから少しずつ人の出入りが増え始め、けっこうにぎやかになってきた。奥さんに聞いてみると、仲間たちと一緒に野菜作りをして協同農園的な使い方を予定しているとのこと。農村とはいえ混住化がすすみ農家は少数。農村に協同農園、グッドアイデアだ▼農地法上、農業者でないと農地の取得はかなわないが、売りに出される農地をとりあえず農業者が購入して、これを協同農園化して市民もこれに参画。まさに都市農業で必要とされるスキームではないか。現場からいいヒントをもらった。

(土着菌)